

## EasyAdmin, Agent, Applications Managerの連携

以下のドキュメントでは、OpenLM Agentのアプリケーション (製品) リストに定義を追加して、OpenLM Applications Managerで定義を伝搬および構成する方法について説明します。OpenLM Applications Managerが既にインストールされていることを前提としています。

### 1. 必要な構成ファイルの変更

### 2. 製品リストへのアプリケーションの追加

#### 2.1 アプリケーションの手動追加

#### 2.2 「フォルダを選択」を使用して1つ以上のアプリケーションを追加する

#### 2.3 「ファイルを選択」を使用してアプリケーションを追加する

#### 2.4 「プロセスを選択」を使用したアプリケーションプロセスの追加

### 3. アプリケーション定義が OpenLM Applications Managerに追加されたかどうかの確認

### 4. アプリケーションリストを他のOpenLM Agentに手動で複製する

## 1. 必要な構成ファイルの変更

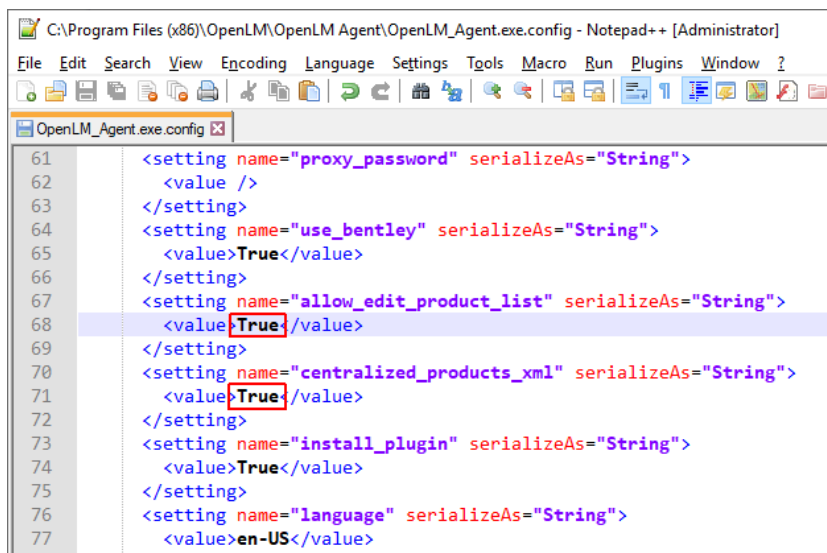
OpenLM Applications Managerの規則は、OpenLM Agentが存在するローカルリストと OpenLM Applications Managerのマスターストの両方に同じ項目が存在する場合にのみ適用されます。

OpenLM Agentのアプリケーションリストにアプリケーション定義を追加できるようにするため

1. 管理者権限で OpenLM\_Agent.exe.config ファイルを開く (通常はC:\Program Files (x86)\OpenLM\OpenLM Agent)



## 2. 以下のフラグを編集します。



```
C:\Program Files (x86)\OpenLM\OpenLM Agent\OpenLM_Agent.exe.config - Notepad++ [Administrator]
File Edit Search View Encoding Language Settings Tools Macro Run Plugins Window ?
OpenLM_Agent.exe.config
61 <setting name="proxy_password" serializeAs="String">
62 <value />
63 </setting>
64 <setting name="use_bentley" serializeAs="String">
65 <value>True</value>
66 </setting>
67 <setting name="allow_edit_product_list" serializeAs="String">
68 <value>True</value>
69 </setting>
70 <setting name="centralized_products_xml" serializeAs="String">
71 <value>True</value>
72 </setting>
73 <setting name="install_plugin" serializeAs="String">
74 <value>True</value>
75 </setting>
76 <setting name="language" serializeAs="String">
77 <value>en-US</value>
```

### allow\_edit\_product\_listをTRUEに設定

これにより、ローカルユーザーは、このドキュメントで後述する製品リストを編集できます。この設定を False に設定すると、エージェントの構成ウィンドウでボタンがグレー表示されます。

### centralized\_products\_xmlをTRUEに設定

EasyAdminのOpenLM Applications Manager管理ウィンドウで定義されているマスターリストにAgentのローカルリストを同期します。True に設定すると、ローカルのAgentにアプリケーション定義を追加すると、そのアプリケーション定義が自動的にマスターリストに追加され、その逆に、EasyAdminを使用してマスターリストに追加された定義は自動的にローカルリストにコピーされます。この値をFalse に設定すると、マスターリストとの同期は行われず、アプリケーションを両方のリストに手動で追加する必要があります。

これらのフラグは、Agentのサイレントインストールを使用する場合、インストール時に引数として自動的に構成することもできます。

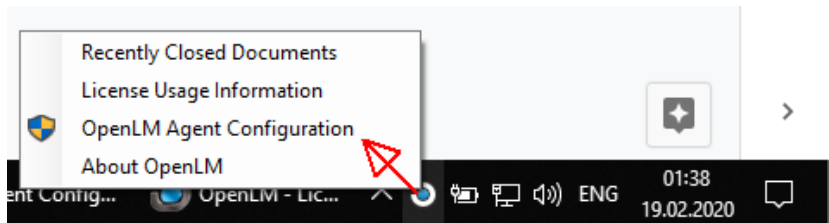
## 3. 変更を保存します。

## 4. OpenLM Agentを再起動する (Windows スタート→ OpenLM → OpenLM Agent Restart )

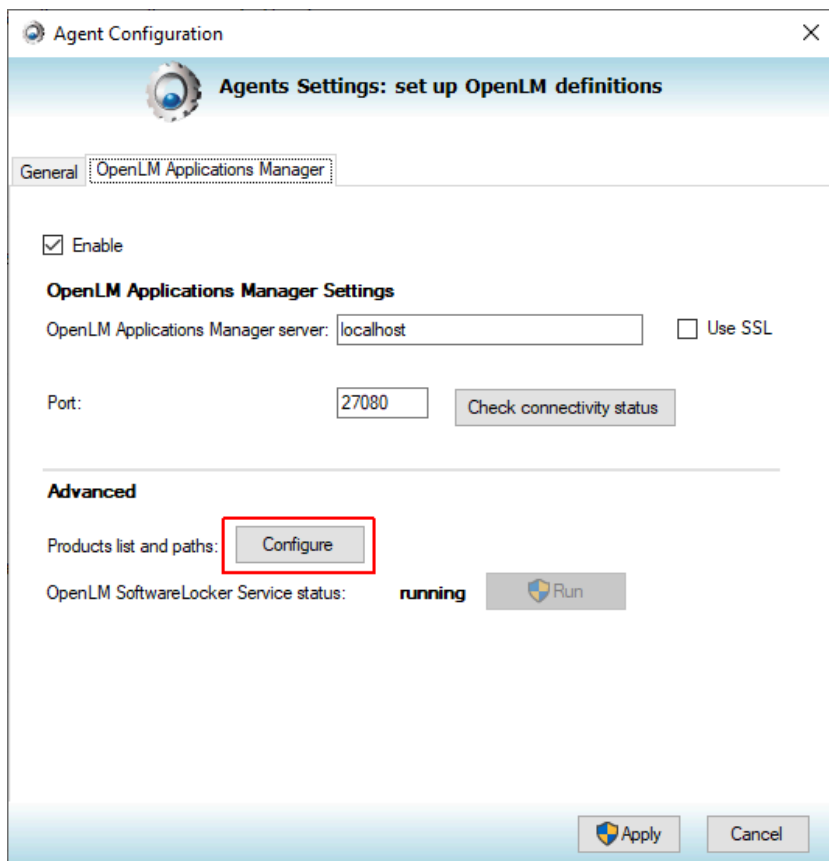


## 2. 製品リストへのアプリケーションの追加

1. **OpenLM Agent**システムトレイアイコンを右クリックし、**OpenLM Agent設定**をクリックします(ユーザアカウント制御ポップアップウィンドウが表示される場合があります、**はい**をクリック)。



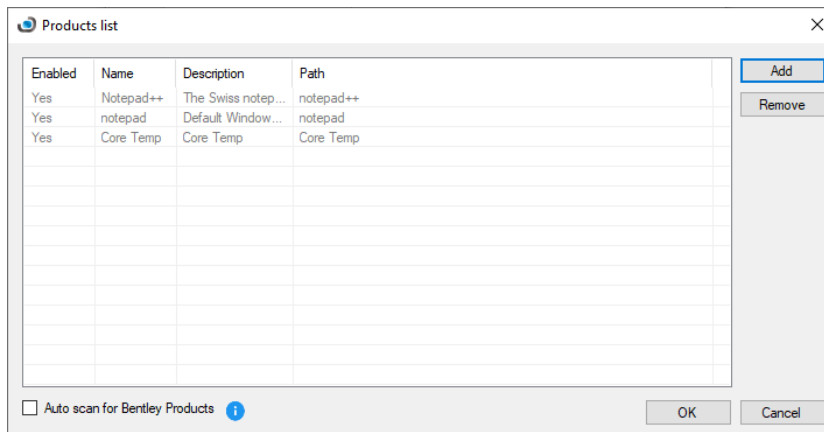
2. **OpenLM Applications Manager**タブに移動し、OpenLM Applications Managerで管理される製品を追加または編集するには、[製品リストとパス]の横にある **[構成]** をクリックします。



**OpenLM SoftwareLocker**サービスの状態が“停止”と表示されている場合は、**[実行]**を押して開始します。

3. 開いている**製品リスト**ウィンドウには、アプリケーションマネージャによって現在追跡されているすべてのアプリケーションが表示されます。





**注意:** Bentley製品を使用する場合は、**[Bentley製品の自動スキャン]** ボックスをオンにすると、Agentが新製品を5分ごとにスキャンし、自動的に製品リストに追加します。**[OK]** をクリックすると、この機能がトリガーされます。

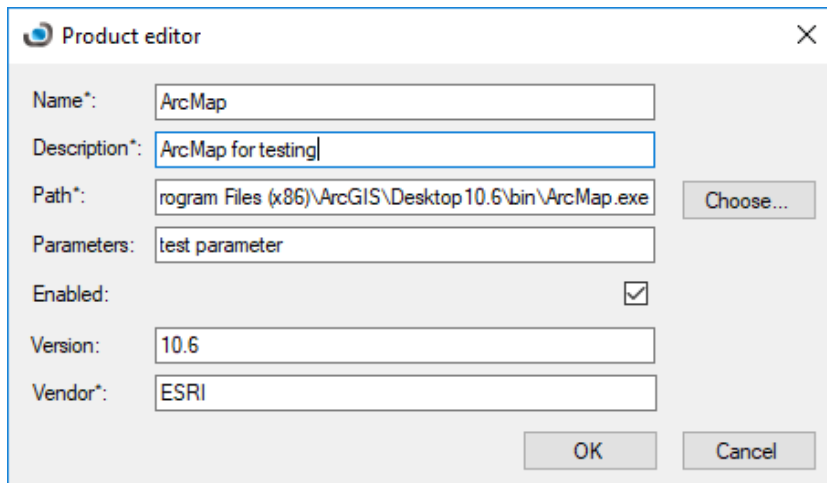
4. 4. **[追加]** をクリックし、**[製品エディター]** ウィンドウで適切なフィールドに入力します。

定義するアプリケーションの種類に応じて、以下の対応する各セクションを参照してください。

## 2.1 アプリケーションの手動追加

ユーザーは、製品エディターでアプリケーションの詳細を手動で入力できます:





- **[名前]** – 監視対象のアプリケーションの名前を入力します。  
OpenLM Applications Manager (たとえばArcMap) に表示されます。
- **説明** – アプリケーションの説明を入力します。OpenLM Applications Manager (たとえばArcMap for Testing) に表示されます。
- **パス** – アプリケーションの実行可能ファイルを含むフォルダーの完全パスを入力します (たとえば、C:\Program Files (x86)\ArcGIS\Desktop 10.6\bin\ArcMap.exe)。
- **パラメーター (オプション)** – OpenLM Agentで監視し、OpenLM Applications Managerに報告するためにアプリケーションが必要とするパラメーターを入力します。

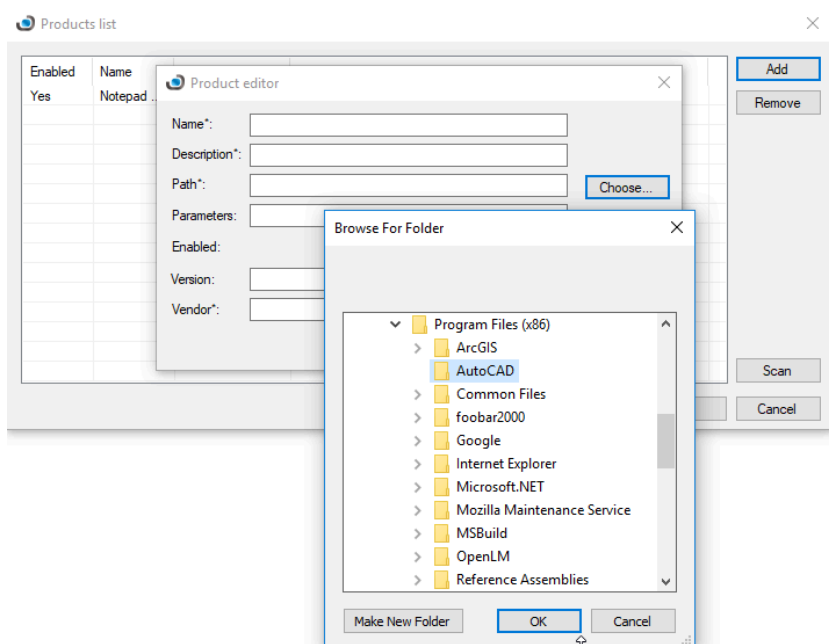
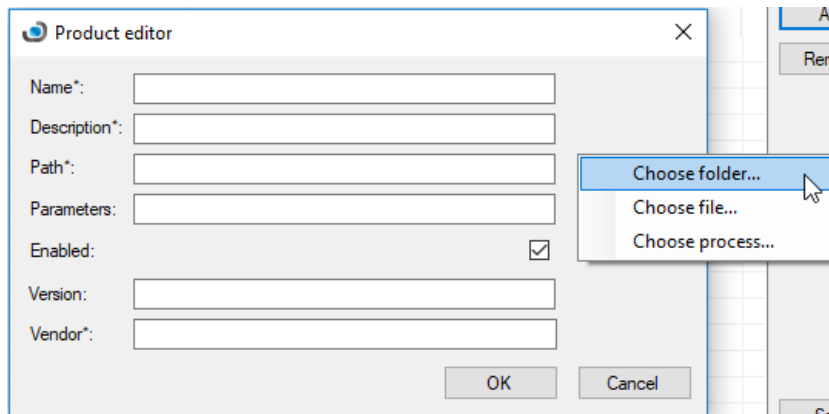
**注意:** OpenLM Agentは、問題のパラメーターを使用して起動されたアプリケーションプロセスのみをモニターします。

- **バージョン (オプション)** – アプリケーションのバージョン番号。OpenLM Applications Manager (たとえば10.6) に表示されます。
- **ベンダー** – アプリケーションの製造元の名前。OpenLM Applications Manager (たとえばESRI) に表示されます。

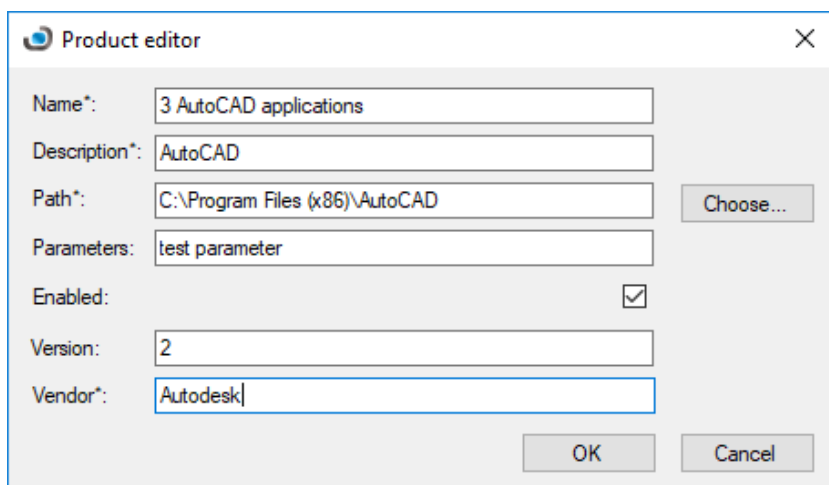
## 「フォルダを選択」を使用して1つ以上のアプリケーションを追加する

[製品エディター] ウィンドウで **[選択]** をクリックし、**[フォルダの選択]** をクリックすると、1つ以上のアプリケーションを含むフォルダの監視を構成できます。





[OK] をクリックして、選択したフォルダを設定します。



- **[名前]** –監視対象のアプリケーションの名前を入力します。  
OpenLM Applications Managerに表示されます(たとえば、3 AutoCAD applications )。
- **説明**– フォルダ名を使用してデフォルトで自動補完します。また、OpenLM Applications Managerに表示されるアプリケーシ



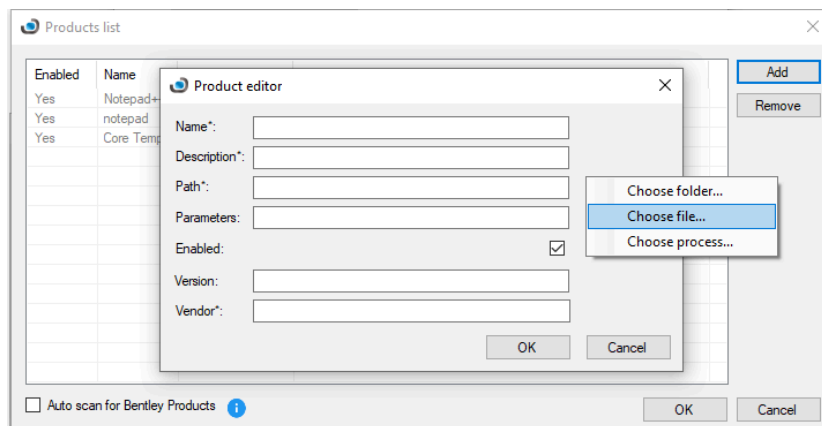
ョンの説明(たとえばAutoCAD)を使用して変更することもできます。

- **Path** – 既定では、アプリケーションの実行可能ファイルを含むフォルダへのパスを使用してオートコンプリートを実行します(たとえば、C:\Program Files (x86)\AutoCAD)。
- **パラメーター** (オプション) – OpenLM Agentで監視し、OpenLM Applications Managerに報告するためにアプリケーションが必要とするパラメーターを入力します。

**注意:** OpenLM Agentは、問題のパラメーターを使用して起動されたアプリケーションプロセスのみをモニターします。

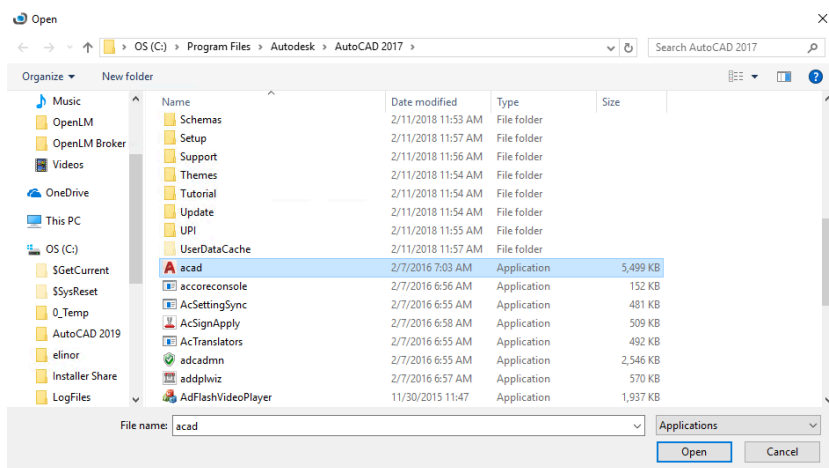
- **バージョン** (オプション) – アプリケーションのバージョン番号。OpenLM Applications Manager (たとえば 2 ) に表示されます。
- **ベンダー** – アプリケーションの製造元の名前。OpenLM Applications Manager (たとえばAutodesk) に表示されます。

## 2.3 「ファイルを選択」を使用してアプリケーションを追加する

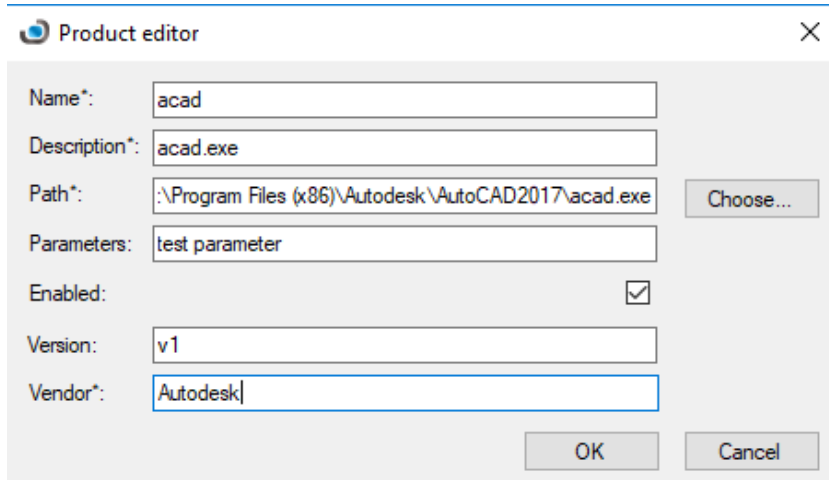


**[選択]** をクリックし、**[ファイルの選択]** をクリックすると、必要なアプリケーションに関連付けられた実行可能ファイルを選択できます。





[開く] をクリックしてファイルを選択します。[プロダクト エディタ] ウィンドウが表示されます。



- **[名前]** – 監視対象のアプリケーションの名前を入力します。OpenLM Applications Manager(たとえばacad)に表示されます。
- **説明** – デフォルトでファイル名で自動補完されます。OpenLM Applications Managerに表示されるアプリケーションの説明を保持するように変更できます(たとえばacad.exe)。
- **パス** – 選択されたアプリケーション実行可能ファイルへのパスを使用して、デフォルトでオートコンプリートを実行します(たとえば、C:\Program Files (x86)\Autodesk\AutoCAD2017\acad.exe)。
- **パラメーター (オプション)** – OpenLM Agentで監視し、OpenLM Applications Managerに報告するためにアプリケーションが必要とするパラメーターを入力します。

**注意:** OpenLM Agentは、問題のパラメーターを使用して起動されたアプリケーション/プロセスのみをモニターします。

- **バージョン(オプション)** – アプリケーションのバージョン番号。OpenLM Applications Manager(たとえばv1)に表示されま



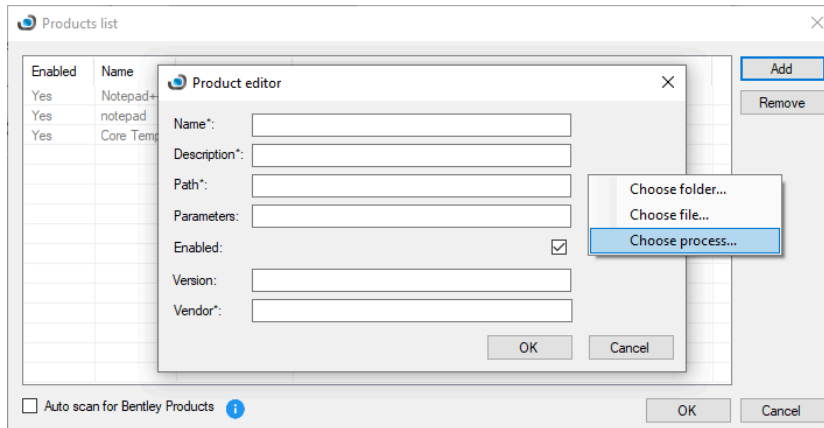


す。

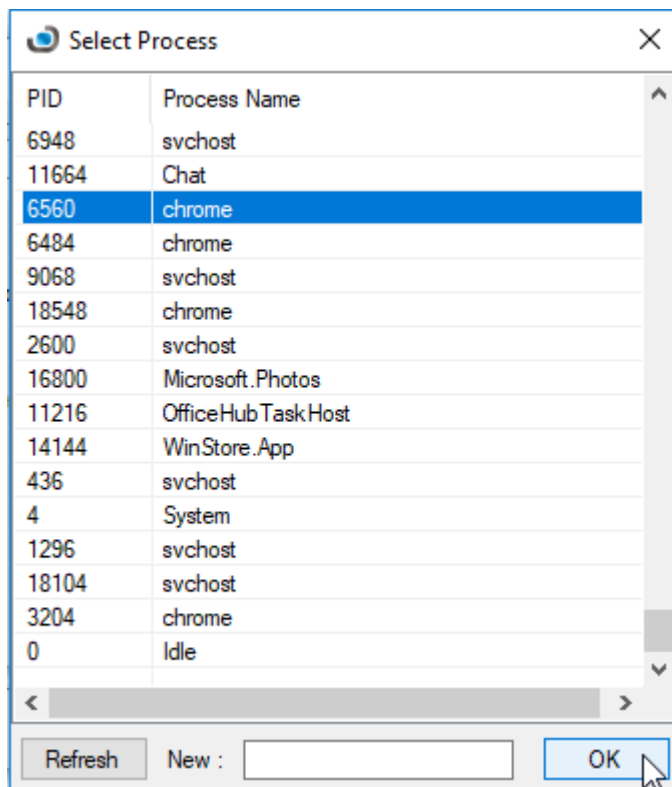
- **ベンダー** – アプリケーションの製造元の名前。OpenLM Applications Manager (たとえばAutodesk) に表示されます。

## 2.4 「プロセスを選択」を使用したアプリケーションプロセスの追加

OpenLM Agentでアプリケーション・プロセスをモニターするには、「**選択**」をクリックし、「**プロセスの選択**」を選択します。



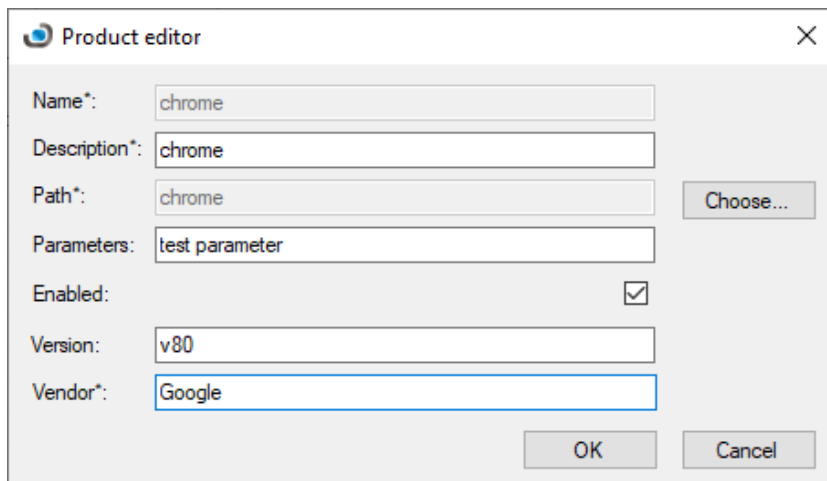
**[プロセスの選択]** ウィンドウが表示され、現在アクティブなプロセスのリストが表示されます。必要なプロセスを選択し、**[OK]** をクリックします。



**[更新]** をクリックして、プロセスの一覧を更新します。



必要なプロセスがこの一覧でアクティブでない場合は、その名前を **[新規]** フィールドに入力し、 **[OK]** をクリックします。



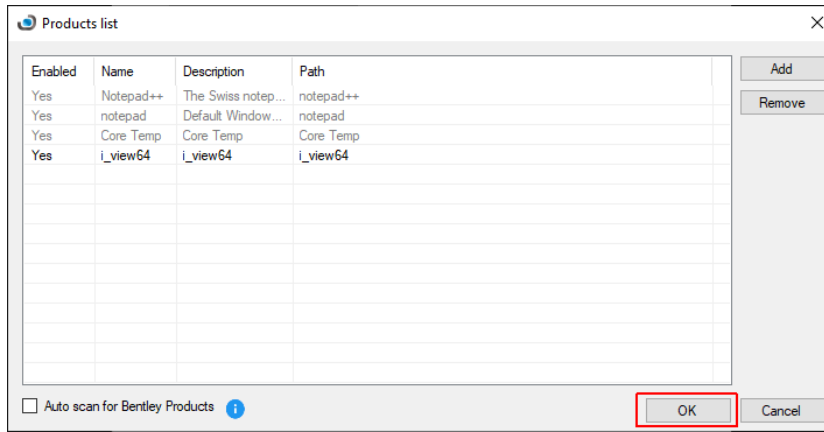
- **名前** – デフォルトで自動完了し、監視対象のプロセスの名前を使用します。OpenLM Applications Manager (たとえばchrome) に表示されます。プロセスを選択した後は変更できません。/li>
- **説明** – デフォルトでプロセス名を使用して自動完了します。OpenLM Applications Manager (たとえばchrome) に表示されるプロセスの説明を変更できます。
- **パス** – 既定で自動完了します。変更できません (例: chrome)。
- **パラメーター** (オプション) – OpenLM Agentで監視し、OpenLM Applications Managerに報告するためにアプリケーションが必要とするパラメーターを入力します。

**注意:** OpenLM Agentは、問題のパラメーターを使用して起動されたアプリケーション/プロセスのみをモニターします。

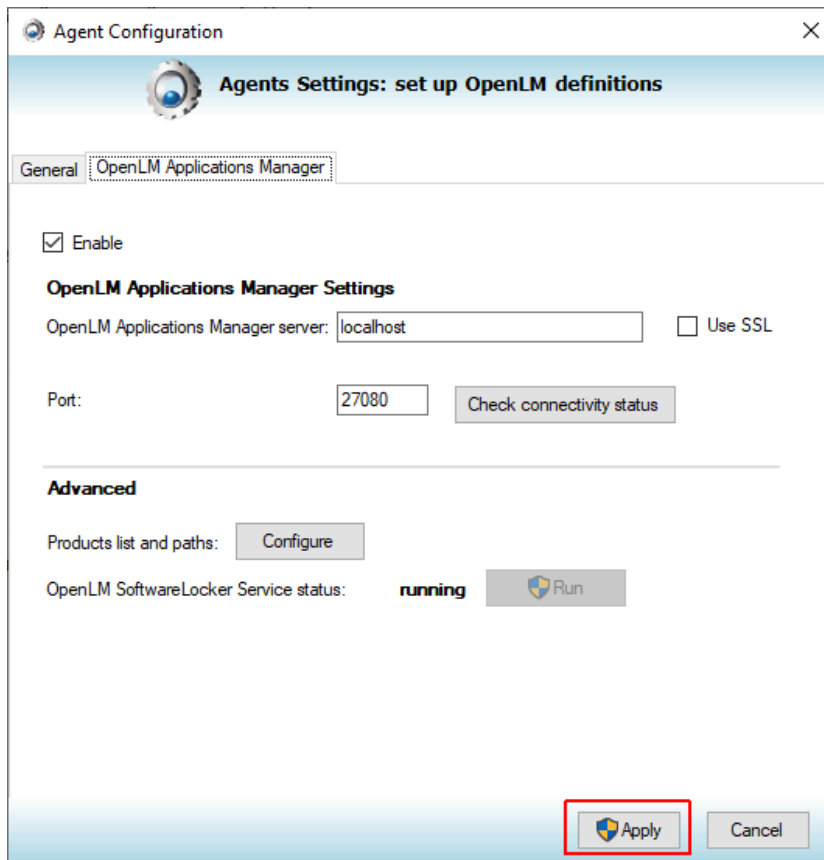
- **バージョン** (オプション) – アプリケーションのバージョン番号。OpenLM Applications Manager (例:v80) に表示されます。
- **ベンダー** – アプリケーションの製造元の名前。OpenLM Applications Manager(例:Google)に表示されます。

5. **[OK]** をクリックして変更を保存し、アプリケーションを [製品] リストに追加します。





6. **OpenLM Applications Manager**タブで **[適用]**をクリックして変更を保存し、設定ウィンドウを閉じます。



7. ユーザーアカウント制御ポップアップウィンドウが表示される場合は、**[はい]**をクリックします。

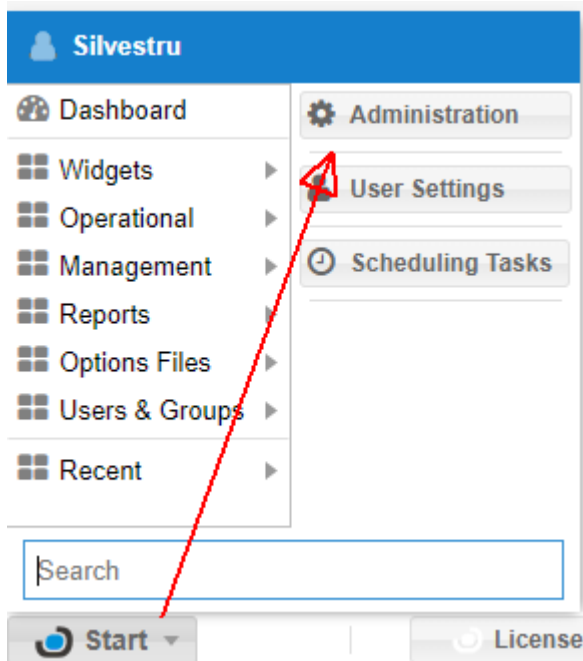
### 3. アプリケーション定義が OpenLM Applications Manager に追加されたかどうかの確認

OpenLM Agentの製品リスト内のアプリケーション定義が OpenLM Applications Managerのリストに正常に追加されたかどうかを確認するには、以下のようにします。

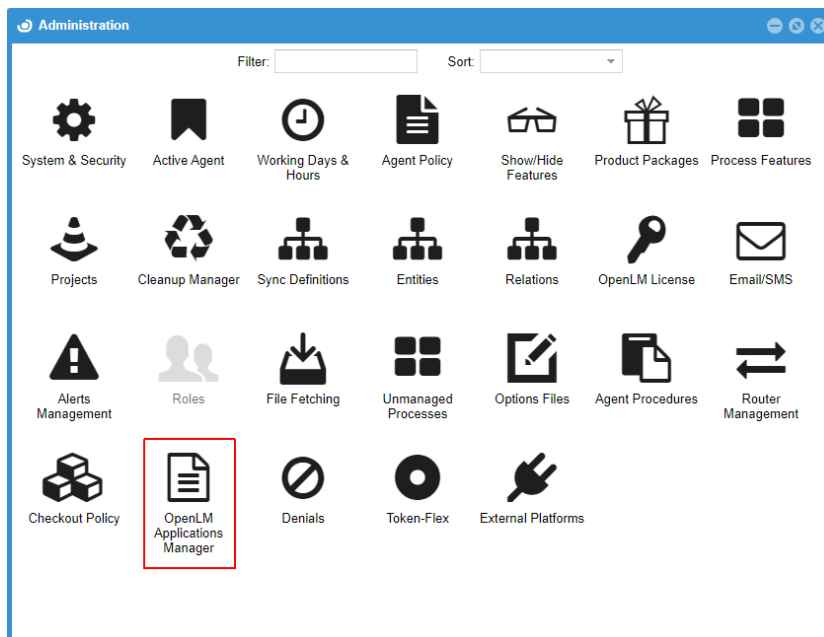


1. EasyAdminを開く (Windows スタート→ OpenLM → OpenLM EasyAdmin ユーザーインターフェイス)

2. EasyAdmin: スタート→管理に進む

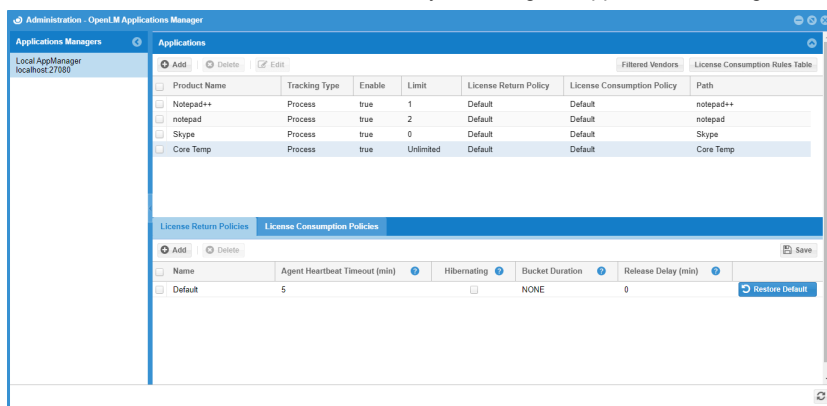


2. OpenLM Applications Manager をクリックします。



3. OpenLM Applications Managerウィンドウが開きます。アプリケーションリストには、OpenLM Agentの製品リストに追加されたアプリケーションが含まれている必要があります。





ライセンスリターンおよびライセンス消費ポリシーの設定の詳細については、[OpenLM Applications Managerの構成ガイド](#)またはこの[ウェビナー](#)を参照してください。

## 4. アプリケーションリストを他の OpenLM Agent に手動で複製する

OpenLM Agentのアプリケーションリストが構成されると、構成ファイル内の**centralized\_products\_xml**フラグを True に設定しなくても、リストを他の OpenLM Agent に手動で複製できます。

これは、

**C:\ProgramData\OpenLM\OpenLM\_SoftwareLockerService**にある**products.xml**ファイルをコピーし、OpenLM Agentを持つ他のコンピュータの同じ場所に上書きすることで、手動で行うことができます。

+81 (0)50 5893 6263

[sales@openlm.com](mailto:sales@openlm.com)

